
飽和する欲は人を支配し・・・

秋月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

飽和する欲は人を支配し・・・

【Nコード】

N2901R

【作者名】

秋月

【あらすじ】

貴方はどうやって生きていますか？

（前書き）

生と死を考えて、思ったことを書き綴ったものです。

今日も、何事も無く過ぎて行く。

それが幸せなのかは分からない。

ただ言えるのは・・・確信を持つて言えることはただ一つ。

「確実に死に一步近づいた」と言うこと。

きつとおそらく例外なく、人は死ぬ。

いつかは这个世界から消えなければいけない。

人の持つ唯一にして絶対のその「権利」は、人を苦しめると同時に人を進化させる。

死を恐れた人々は自らの知恵を結集させ、医療を発展させてきた。

永遠なんて言葉が叶うことはないから、

せめて愛するあのひと、愛おしいあのひとと過ごす瞬間を大切に生きていく。

終わりが見えているからこそ、最後まで頑張ろう、

せめて生きている内にやっておきたいという感情が浮かんでくる。

「死」は人の恐怖を表すと同時に、人の「生」をより一層輝かせている。

「ねえ、愛しているわ。一生傍にいてちょうだい」

死の無い世界があつたなら、それこそが一番の不幸だろう。

「ああ、もちろんだ。死ぬまで一緒に。・・・死ぬまで・・・？死ぬ、まで・・・？」

人はやがて狂う。

終わりの無い世界が人を狂わせる。

「冗談じゃない。一生とはいつまでだ？いつまでお前と過ごせと言
う？」

死が人を支配する。

それは幸福さえも同様で…

——ああ、神様。死の意味が消えた今、何を持って「生きている」
と言えるのでしょうか？

（後書き）

こんなものばかりかいていると、自分はどれだけネガティブなんだとか思われそうですね。

本文は好きに解釈してください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2901r/>

飽和する欲は人を支配し・・・

2011年10月7日15時13分発行